

Okayama Research Park Incubation Center

ORIC NEWS

翔飛

ひしよう



入居企業紹介

詳細は7ページをご覧ください。

一本号の主な内容

巻頭言

2010年度 ORIC及び入居企業・卒業企業の活動

研修・交流会活動

入居者紹介

入居者の活動トピックス

新入居企業紹介

イベント案内

No.32 (2011.4)

「ベンチャー企業魂で日本の復興を！」

岡山リサーチパーク インキュベーションセンター
センター長 谷口 人文



3月11日午後2時ごろ、東北・関東地方を未曾有の大きさの地震が襲い、地震と大津波により前代未聞の数の尊い命が失われました。また未だに行方の分からない方々も1万人を大きく超えると報じられております。

亡くなられた方々のご冥福を心より祈ると同時に、行方不明の方々の一刻も早い救出を祈るばかりです。また数10万人の被災された方々の健康維持と復旧への着実な歩みを、日本国一丸となって支え応援する事が必要であると思います。昨年ノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生が先般岡山で講演されました。先生はその冒頭で被災者の皆様へ“Life must go on!”という言葉をご贈られました。この言葉はまさに直接被災された方々だけでなく、太平洋戦争後最大の危機に直面した私たち日本国民全員に向けた励ましにも思えました。

今回の災害は全日本人が全く経験した事が無いレベルのものであり、その結果多くのものが失われ、傷つきました。この復興はゼロからキャンパスに絵を描くと言うよりは、真っ白なキャンパス作りから始めると言ったものかもしれません。ゼロからの出発、これを支えるものはベンチャー企業魂に代表される「緻密な戦術・戦略と強い意志」です。日本復興

に向け今こそ各人が「ベンチャー企業魂」で取り組んでいく事が望まれると信じております。

さて岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）はこの4月から9年目に入りました。この間入居された数は92社・者（うち現在入居中36社・者）に上り、一定の雇用創出と経済効果を挙げることに寄与してまいりました。現在入居中の36社はバイオ・機能性食品を含むものづくり系が22社、IT系が14社であり、それぞれ極めてユニークなあるいは先端的な商品を持って事業基盤の確立を目指しております。ORIC入居企業は今まさにそれぞれの用意した白地のキャンパスに絵を描き始めた所です。この知恵と意志とが同時に日本復興の重要な支えとしてお役に立っていただくよう心より念じております。

岡山県、(財)岡山県産業振興財団、県内各大学・研究機関、県内各金融機関、その他関係各所の皆様方には日ごろからORIC入居者・ORIC運営に多大なご支援・ご協力を頂いており心より感謝申し上げます。ORICからの健全な事業創出に向け、本年度も引続き多大なご支援・ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

飛翔1月号（No.31）訂正のお願いとお詫びについて

2011年1月号において二箇所の記事がありました。5頁下の岡山理科大学島田先生のお名前を「島田秀之准教授」と記載しましたが、正しくは「島田英之准教授」です。また7頁下の写真の説明を「35m先点灯後700ルクス」と記載いたしましたが、正しくは「30m先点灯後95ルクス」です。以上二点の誤りについて本紙面にて訂正させていただくとともに深くお詫び申し上げます。

■ 2010年度 ORIC 及び入居企業・卒業企業の活動

1. 【入居および卒業企業数】

2003年4月の開所から2011年3月末（2010年度末）までに、延べ91者の企業、個人が入居しました。（ものづくり系：52社、IT系：39社）2010年度の新規入居は10者でした。このうち個人は4者でしたが、すでに3者が企業を設立しています。

また、これまでに56社が退去しており、そのうち35社は、「卒業」（*1）と認定しています。2010年度の退去は2社で、卒業ではなく、撤退と計画変更でした。

2011年3月末には35社が入居しており、このうち1者は特別許可者（*2）です。業種分類では、ものづくり系：21社、IT系：14社となります。また、これら35社で、全58室中43室を利用しており、入居率は74%です。このうち、創業企業（*3）は17社です。また、創業5年以内の企業数と企業設立を目指している個人を合わせた数は20者となり、全入居者の57%となります。さらに、創業後10年以内の企業まで含めると94%になり、若い企業ばかりです。

- *1：卒業：ORIC入居中に所期の目的を達成したり、入居期間を満了した企業
- *2：特別許可者：県が行う事業に参加する者として入居を許可された者
- *3：創業企業：ORIC入居に前後して会社を設立した企業

2. 【雇用の創出】[2011年2月末日現在]

ORICに入居中の企業と卒業企業が、ORIC入居後に創出した雇用者数は、創業企業が102名、既存企業（*4）が11名、卒業企業が56名でした。なお既存企業については（卒業企業も含めて）、ORIC入居後の純増をカウントしています。

昨年度末である2010年2月期には、リーマンショック後の不況の影響を受けて、入居企業も卒業企業も雇用者数を減らしていましたが、2011年2月期には、入居・卒業企業ともに大幅に回復してきており、総計169名と、過去最高になりました。ORICとしては、卒業企業はもとより、入居企業も着実に力を着けてきているものと期待しています。

- *4：既存企業：入居時の雇用者数（常勤役員を含む）が20人以下の企業

3. 【売上の創出】[2010年3月末日までのデータを集計]

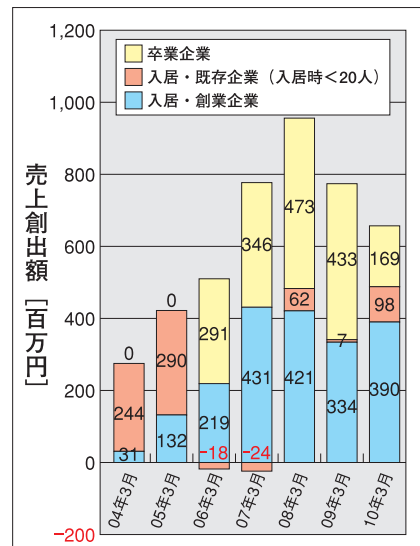
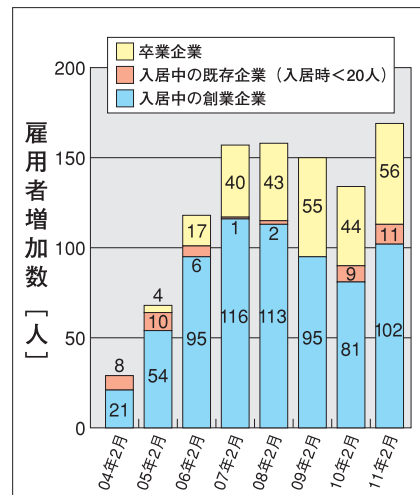
売上高については、決算の集計等の都合で、2010年3月期までに集計の上昇したデータを用いています。雇用面と同様に、非常に大きな減少に見舞われていました。雇用が維持出来なかった裏には、売上の大幅ダウンがあったことがデータから伺えます。

数値上では、特に卒業企業の売上ダウンが大きく影響しました。ただ、入居中の既存企業と創業企業は、わずかながら、09年度よりも売上を増加させました。2010年度全体の集計は、来年3月にまとめる予定ですが、雇用データが回復を示しているの、売上の面でも回復基調にあると推定しています。

4. 【メディアへの掲載】

メディアへの掲載は、企業名や商品の知名度向上に大きく寄与するため、創業支援活動の中で重要な位置づけにあります。2010年度は、合計63件で、全般的に低調でした。入居企業の記事の減少が目立ち、話題性のある商品や企画に課題を感じています。

	04年度		05年度		06年度		07年度		08年度		09年度		10年度	
	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌
入居企業	9	11	39	20	28	24	25	27	32	26	29	25	25	17
卒業、退去企業	0	1	7	3	5	3	0	3	1	2	5	10	0	6
ORIC関連	4	3	4	4	3	8	3	4	9	2	7	5	6	9
合計	13	15	50	27	36	35	28	34	42	30	41	40	31	32
新聞、雑誌合計	28		77		71		62		72		81		63	



(スタッフルームにてコピー保管分のみ)

■ 平成 23 年 1 月度 ORIC 交流会及びセミナー

● 入居企業紹介

「リバティーゲート社の事業紹介」 株式会社リバティーゲート

同社は自動車整備事業者向け業務支援パッケージソフトの開発・販売・保守と自動車販売会社向け CRM / SFA の開発を目的に昨年 7 月に起業した IT ベンチャー企業です。自動車整備事業者向け販売管理ソフトに特化した理由などを中心に青木社長から説明がありました。自動車整備業では顧客情報管理と車両情報管理の二つが必要なこと、税金・保険などの預り金が発生するなど他業界とは異なる業務支援パッケージソフトのニーズがあります。また、ガソリンスタンドの減少に見られるように自動車関連業界は縮小の状況にあり、コスト削減が必要になってはいますが、同種のソフトは大手の寡占化が進み 5 年リースで価格も高いままです。青木社長はネット上の販売サイトからダウンロード可能なソフトを 1 年更新で利用できるビジネスモデルを構築しました。販売サイトと他社の決済代行サービスを利用する等、販売経費を押さえることで、年間利用料を同種ソフトのリース料 1 か月分を少し上回る程度に設定しました。今後は業界紙・機関紙への広告掲載などの販売促進策を予定しているそうです。



● ゲスト機関紹介

「地域貢献でガンバル岡山県大／笑う企業は伸びる」

岡山県立大学地域共同研究機構 産学官連携推進センター



岡山県立大学は平成 5 年の開学ですが、地域共同研究機構は平成 17 年に設置されました。地域共同研究機構 産学官連携推進センターの活動について、同センターの湯浅産学官連携コーディネーターから説明がありました。

産学官連携推進センターは産学官連携の県大側の窓口として、技術相談・共同研究・受託研究・アクティブラボ（出前研究室）などを通じて、地域社会との連携・企業等支援・学域融合研究の振興などを推進しています。その成果は開学記念日に開催される O P U フォーラムで発表されますので、ぜひ参加いただきたいとの案内もありました。

湯浅氏からは“笑う企業は伸びる”に関連して「笑い」の効能について説明があり、日本笑い学会と岡山笑わん会支部の活動についての紹介もありました。

● ORIC セミナー

「起業してから」～起業してからのポイント～ 株式会社アリオンシステム

2011 年 1 月度のセミナーでは（株）アリオンシステム代表取締役の山本篤憲氏にご講演いただきました。山本氏は大手 IT 企業に 28 年間勤務された後、51 歳で起業され、初心を忘れないために当時愛用されていた愛車の名前を社名にされました。県営のビジネスインキュベーター（e-プラザ）に入居され、前職のコネは全く使わず、設定した業務目標（毎月一人分の仕事獲得）を頼りに暗中模索で仕事の獲得に当たり、その結果創業後まもなく年商 8,000 万円超を達成されました。助成金申請時における事業計画策定、プレインキュベーションセミナーでの友人の獲得、新聞広告・テレビ広告などによるブランド力向上、などが事業運営において有効であったとの事でした。一方で会社運営では社員・経営者が一体となった「家族主義的会社運営」を心掛けていられるそうで、社員採用においても「素直さ」を基準に置かれているとのことでした。要となる会社理念としては「明・前・善」を掲げられています。経営者として発生するストレス解消法は？との質問に、「座禅・瞑想」を心掛けておられると話されていました。



■ 平成 23 年 2 月度 ORIC 交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「自動電話秘書サービスについて」 株式会社VOIPACK JAPAN

代表取締役社長の稲葉多吉氏から同社の新しいビジネスである「自動電話秘書サービス」について説明していただきました。稲葉社長はご自身のニーズを新規ビジネス開発の“ねた”にされるとの事で、今回のサービスもこのような経緯によるものだそうです。新規サービスは同種の他社のサービスに対して次のような特長を備えているとの事です。複数転送可能、複数メール通知可能、自動音声応対可能、顧客管理機能あり、国内料金での国際転送可能など同社ならではの多くの機能が備えられているそうです。創業間もない社員の少ない企業にとって、外出、商談中、営業時間外などにおける顧客からのコンタクトに対して直接応対できないときが多々出現します。このような時に本システムを導入することで「顧客に対する信用度UP!!」が図れるとのことを稲葉社長は強調されていました。



●ゲスト機関紹介

「岡山県のIT・コンテンツ施策について」 岡山県産業振興課 新産業推進班



岡山県産業振興課副参事の浅野正己氏から「R u b y ビジネス活用推進事業」「おかやまコンテンツスクエア運営事業」「農商工連携ITコーディネーター設置事業」についてお話いただきました。R u b y ビジネス活用に関しては若手人材育成プログラム、ワールドカンファレンス(松江)への参加、R u b y 普及啓発冊子の作成などが主な事業内容だそうです。またおかやまコンテンツスクエア事業ではオープンソースソフトウェア(OSS)活用フォーラム、若者対象の実学セミナー、産学連携・異業種交流会開催、コンテンツスクエアフォーラム開催など多岐に亘った活動内容を紹介していただきました。H23年度はR u b y を使った開発事例をふやす目的で、「R u b y によるシステム開発支援・普及事業」を計画しているとの事でした。

●ORICセミナー

「世界最高水準の解像度スキャナーカメラの開発と当社のニッチ戦略」 コンテンツ株式会社

小野社長より、創業の経緯から、現在のビジネスの状況までをお話いただきました。同社は、今年で創業13年目との事です。元は普通のサラリーマンだった小野社長は、40才の時に大病をされ、余命3年との宣告を受けました。幸い、回復されましたが、この時の経験で人生観が変わり、「何かを残したい」という強い気持ちが生まれたとの事でした。その気持ちから、平成5年に退職し、平成10年、満50才の時に、興味があった画像をビジネスにするコンテンツ(株)を設立され、その後、宮内庁正倉院事務所のプロジェクトへの参加などで、デジタル化の世界に深く踏み込んで行かれました。



その間、デジタル化の世界も、写真から、スキャナーのような連続的な情報採取の考え方に移行してきました。世界最高水準の解像度スキャナーカメラの開発は、この流れの中にあります。

ご講演の中で、同社がデジタル化した様々な文化財が示されましたが、拡大/縮小が自由自在で、現物を肉眼で見るとよりも詳細な観察が可能です。

社長は、電子教材なども、デジタルでなければできないコンテンツを提供していくことで、子どもたちにいろいろな可能性を触発させることもできると、デジタル化の将来について、熱い期待と可能性を抱いています。

●入居企業紹介

『「優しい企業」を目指して』 株式会社フレッシュグリーنز

大橋統括部長より同社の事業計画の紹介がありました。同社は、植物工場の企画、運営を目指している企業です。県内の鉄工関係7社の経営者が資金を出し合って設立しました。鉄工とは畑違いですが、植物工場の今後の成長性を考慮して決断されたようです。研究面で一日の長のある大阪府立大学と共同研究契約を締結し、テストプラントを建設しますが、初めから事業としての採算性を考慮して、3,000坪からなる、大規模プラントを計画しています。ここで、自動制御システムとオペレーター育成、データ蓄積を行って第2ステップで、本格製造に移行し、第3ステップでフランチャイズ化を目指しているとのこと。スケールの大きな話に、皆聞き入っていました。



●ゲスト機関紹介

「地域バイオマス資源産業化に向けて」 真庭市バイオマスリファイナリー事業推進協議会



真庭地区では、1990年代の初め頃から今後の真庭地域の発展を考えて、若手経営者を中心に「21世紀の真庭塾」という形で、環境と産業の調和をテーマに、研究会で勉強を続けてきたそうで、その活動が、現在の真庭バイオエネルギー(株)や真庭バイオマテリアル(有)に繋がったそうです。特に、1998年に銘建工業(株)が自社から排出される木材廃材を使った発電所を自力で建設したことが大きな契機になっているようでした。その流れは木材資源活用産業クラスター構想に発展し、現在のバイオリファイナリーの発想に至っているとのこと。

現在は、真庭バイオマスラボに産総研の研究施設も入居し、研究と、事業創出の活動が行われているとのこと。地道に、いろいろな活動が絶えることなく継続されていることに、地域の活力のすばらしさを見せつけられました。

●ORICセミナー

「木質系バイオマスのマテリアル利用についてー 岡山県の取り組みを中心に」 おかやまグリーンバイオ・プロジェクト

岡山県がものづくり重点4分野に指定するバイオ関連の“グリーンバイオ・プロジェクト推進事業”でプロジェクトマネージャーを務める小田喜一氏より掲題の説明がありました。(独)産業技術総合研究所での勤務経験もある小田氏は国レベルでの研究の状況・問題点、海外との比較などについても説明されました。バイオエタノールでは安価なトウモロコシなどを使える海外に国内原料の競争力はないが、バイオマスプラスチックは自動車・家電製品部材としての使用が拡大されるとのことでした。



岡山県の本プロジェクトの始まりは平成16年度ですが、現在は「森と人が共生するSMART工場モデル実証」が進行中です。これは再生可能エネルギーを利用し、間伐材等の森林資源から革新的新素材「セルロースナノファイバー」を製造するための技術開発と社会導入に向けた実証事業です。ナノレベルの効率的な超微粉碎技術の開発による革新的新素材の製造と技術の開発による新産業創出と林業の再生、雇用の拡大を通じた中山間地域の活性化など地域基盤の形成も目指しています。

新産業として見る場合、国内では「木を切り集める」費用が大きいため難しい面もあるが、資源のカスケード利用促進、100年単位で見た国土の保全なども含め議論する必要があるとの事でした。

原田服飾研究所

代表者 原田 浩介

連絡先 〒701-1221 岡山市北区芳賀5303 ORIC 103号室

TEL 086-286-9260 FAX 086-286-9261

URL www.haradafukushoku.com E-Mail info@haradafukushoku.com

〈事業内容〉

アパレル衣料品関連の卸売販売
セルローズ繊維・テキスタイル研究

〈沿革〉

2004年 個人事業者として創業
2005年 自社ブランド“TUKI(ツキ)”の
デザインと卸売りを開始
2009年 ORICに入居
現在は国内の約25店舗と取引

ORICの企業の中では珍しく、ファッションデザインという言わばソフト力を重視した事業を行っています。既存事業として全国のファッション市場での卸売販売をしており、自社開発した素材で最適なデザインに仕上げ、倉敷市児島地区の縫製加工業者によって仕立てます。

ファッションデザインには、消費者が今現在、または近い将来に求めている雰囲気や気分を読み取ることが必須ですが、そういった「雰囲気」「ニュアンス」とは偶然の産物ではなく、必然的で緻密に表現されてこそ事業として成り立ちます。

備後地区は世界でも有数のデニム産地ですが、私たち独自の素材分析や試験を備後地区の協力事業者と地道に行い、特に風合いの再現が困難とされている50年以上前のデニムの研究を行っております。デニムは基本的には最も単純な構造を持つ綿織物の一つなので、他の素材への応用も期待でき、他社に真似のできない強い付加価値の創出を目指しています。

入居企業の活動・トピックス

■ おかやま新商品フェスタ2011

おかやま新商品フェスタ2011が平成23年1月28日(金)岡山ロイヤルホテルで開催されました。(株)エーワンシステム梅原相談役の記念講演(聴講者192名)、展示商談会(展示数60社)、販路開拓商談会(商談会145件)など活気に満ち溢れた催し物でした。ORICからも(株)竹田技研、(株)VOIPACK JAPAN、(株)ユニバーサルテクノロジーズ、(株)スイフトスタッフの4社が参加しました。

■ おかやまバイオマスイノベーション創造センター開所記念セミナー

平成23年2月21日(月)におかやまバイオマスイノベーション創造センター開所記念セミナーがORIC交流サロンで開催されました。倉敷芸術科学大学岡田教授の事業計画説明、信州大学荒木特任助教の記念講演、ORIC内研究室見学が行われました。昨年11月から岡山県の委託機関として岡田教授を責任者とする同センター研究スタッフがORICに入居されていましたが、晴れて開所の運びに到ったものです。約50名の関係者が参加されました。

イベント案内

■ 4月26日(火) 第26回ORIC「IT研究会」を開催します。

岡山OSS研究会会長の安原秀昭様とシステムプロダクト(株)デジタルコンテンツ事業部部長の李超様を講師にお招きし、OSSビジネス活用とデジタルコンテンツ作成システムについてお話をさせていただきます。

- ◆ 日時：平成23年4月26日(火) 13:30～15:30
 - <13:30～14:15> 「OSS (オープンソースソフトウェア) のビジネス活用」
講師：岡山OSS研究会
会長 安原 秀昭 様
 - <14:15～15:15> 「Webセミナー・Webプレゼンテーション配信・
デジタルコンテンツ自動作成システム『ジェンシー』」
講師：システムプロダクト(株)デジタルコンテンツ事業部
部長 李 超 様
 - <15:15～15:30> 質疑応答、名刺交換
- ◆ 場所：ORIC 2F 交流サロン

新入居者紹介

2010年12月に開催された第31回入居審査会により下記1社が入居しました。

入居企業名	事業概要	所在地	分野
(株)フレッシュグリーンズ	・「植物工場」の研究・開発・設計・施工・販売・ 保守メンテナンス	岡山市	機械

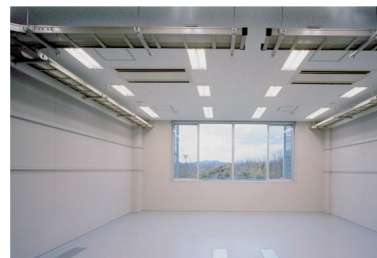
入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2011年4月現在)

施設区分	面積	使用料の月額 (減額後の使用料※)	部屋数	空き室数
研究室小	約 25㎡	45,000円 (22,500円)	22	4
研究室大	約 50㎡	88,000円 (44,000円)	30	7
試作開発室	約 100㎡	175,000円 (87,500円)	6	2
創業準備室	5㎡/ブース	5,000円	6ブース	6ブース



※創業5年未満の会社は、入居後3年間は半額になる制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。

次回は5月末までに事業計画書を提出された方を対象に、6月中に開催の予定です。
(創業準備室の募集は随時受付けています。)

詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.oric.ne.jp>

